



発行所 日本水道新聞社
本社: 〒102-0074 東京都千代田区九段南4-8-8
TEL.03(3264)6721 FAX.03(3264)6725
編集部直電 03(3264)6722
大阪: 〒541-0001 大阪府中央区備前町3-3-9
支社 TEL.06(6155)3630 FAX.06(6155)3866
名古屋: 〒460-0002 名古屋市中区丸の内2-6-7
支局 TEL.052(23)6992 FAX.052(23)2680
http://www.suido-guido.co.jp

水道・水槽・貯水の安全・安心

シンポジウム 設置者らの意識高めめる

ランキンングの導入有効

平成20年度貯水水道に関するシンポジウム(水安全計画による貯水水道の管理水準の向上に関する研究委員会主催)が7月15日、東京・港区の航空会館で開かれた(写真)。約150人が参加した。早川百夫麻布大学生命・環境科学部教授(研究代表者)が「貯水水道の現状と問題点およびランキンング制度の提案」、平田正幸日本給水多クシ工業会技術委員長が「貯水水道の構造と管理のあり方」について基調講演、パネルティスカッションでは、早川教授を議長に別掲の5氏が「貯水水道の安全・安心を考へる」をテーマに、現状の問題点と、その改善策としてのランキンング制度の導入について議論した。

日常の維持管理が重要



早川教授

開会にあたり奥村明雄全国給水衛生検査協会会長が挨拶。今回の研究では、設置者、管理者の貯水水道の管理に対する関心、参加意識を高めるために、どのようなインセンティブを付与していくかについて研究が進められており、昨年度の研究で、貯水水道のランキンング(格付け)を検討、提案した。実効性を高める上で、幅広い関係者の意見を集めることが不可欠と開催趣旨を説明した。基調講演で、早川教授は、「貯水水道の一般的管理主体は民間で、数が多く、設置者の専門的知識が十分ではなく、規制強化だけでは必ずしもうまくいかな



不適合のうち、クリティカルな部分は加算する一等級を評価軸にA、B、Cの段階でのランキンングを考えているとのことだ。平田氏は、貯水水道はFRP製のバネル型が主流で全体の4分の3を占め、小規模では約半分を占めるが、屋外では紫外線の影響が非常に大きいなどの現状を解説した上で、維持管理の重要性を強調。「工業会では、耐用年数を15年と考へ、5年で定期診断、10年で補修診断、15年で更新診断という形で計画的維持管理に取り組んでいる。定期的な維持管理が最も重要。定期的な清掃、部品の交換や保守点検をすれば水槽も長持ちする」とした。久保補佐は、「貯水水道

道は平成18年度現在で全国に約10万施設ある。そのうち、耐震は何らかの法的網がかかっているが、特に小規模で検査が不十分であり、問題を指摘されても改善しないケースも多い。法律による規制だけでは限界がある。とちやうと実効性を高めていくのだが、やはり利用者はじめ関係者に実態を知ってもらい、管理の重要性を認識してもらうことが、関係者全員の意識を高めることが重要。ランキンングはその一つの有効ツール。使えば、誰か

みてわかりやすい、利用者の実感ときちんとして期待している」とした。本間補佐は横浜市の実態調査から、「検査を受け付けてもらえれば、ある程度の管理水準が保たれている」とが伺える。点検を行っていないところは管理状況があまりよくない。小規模、昭和50年以前の設置、地下式も点検ができない、コンクリート製については設置書などに向けたわかりや

く。検査機関による年一回の検査だけでなく、日常の管理が重要で、設置者、管理者の意識と理解が必要。ランキンングは参加のインセンティブを与えると期待される。ただし、明快な基準が不可欠」とした。大野所長はアンケート調査の結果から、「貯水槽施設は設備後比較的短い期間で補修が行われている。水槽が最も多く、次が水槽周辺の配管。経年劣化によるトラブルが多い。定期的な計画による点検・整備、部品交換が不可欠。日頃の維持管理が重要」とした。龍岡所長は、「地震時でも機能するようにはランキンングの評価に入れば実利的。地震大国、日本向けのランキンングになる」と提案した。

◎パネリスト
久保誠成厚生労働省水環境衛生部長▽大野勲東急コミュニケーションセンター所長▽龍崎千遠本社取締役日本水道新聞本部長